

第4回:シリアにおける農業普及改善計画

本シリーズではこれまで、農業普及の大切さに引き続いてシリアにおける普及制度ならびに普及員訓練の現状について報告してきた。今回はシリアの農業農地改革省・普及局の要請に応じて、1994年から3年間にわたり派遣専門家として農業普及改善計画に取り組んだ時の経験を中心に報告することとする。

シリア政府は農業生産の拡大を国家開発政策の最重要課題としているが、低生産性と人口および消費量の急増により食糧自給は未だ達成されていない。普及局は全国に800ヶ所の普及所を擁し、スタッフの合計も4,000人に達する組織であるため、効率的且つ有機的に機能すれば同国の農業開発にとって極めて重要な役割を果たすことは間違いない。しかしながら、現状では部局間の連携は弱く、土壌局や統計局で整備された情報が普及活動の中に全く生かされていない。さらに、首都にある本局から県、郡の支局を経て村レベルの普及所に至るネットワークが効率的に機能していない。こうした状況下において、生産農家に対する助言・技術指導ならびに普及員の育成、普及計画の立案等普及事業の整備を目的として専門家が要請された。

普及局スタッフとの協議を通じて(i)普及活動に必要な基礎情報の整備、(ii)現在実施中の農家調査と調査結果に基づいた普及計画策定の改善、(iii)持続的農業を目指した技術開発の3項目を目標に据えて、派遣期間中に様々な活動を展開した。基礎情報整備に関しては全国に分布する普及所とそれぞれの担当範囲の図化を行うと同時に、土壌図や気象条件区分図、さらには統計情報等の組み合わせによるGIS化を図り、普及所のスタッフが担当地域の特性を容易に把握できることを目的とした情報整備を行った。普及計画策定の改善に関しては、第一段階として農家調査と調査結果の分析にコンピュータを導入した。作目別に統一したフォーマットを使って農家調査を行い、郡、県、国レベルで調査結果を集計するシステムを整えた。こうすることにより、それぞれのレベルで問題を抱えている農家の地理的な分布等が容易に把握できるようになった。また、持続的農業を目指した技術開発に関わる活動を通して、普及スタッフは塩類集積の原因となっている灌漑管理や輪作体系の問題点を探り、集水農業やアグロフォレストリーの実態を観察することができた。

このように、3年間という限られた期間ではあったが、基礎情報整備を通して土壌局、灌漑局といった関連部局との共同作業を通じてスタッフ間の交流が生まれた。また、機会ある毎に中央のスタッフを伴って現場の普及所にも出向いたので、彼等にとって現場スタッフがどんなことに苦労しているかといったことを知る良い機会にもなった。このように、専門家派遣業務を通して、普及局本局を中心に縦と横の連携の活性化に少しは貢献できたのではないと思う。また、本活動による普及員に対する情報や機材の提供が普及員のレベルアップに繋がり、今後少しでも農民に信頼される普及員が増えていくことを願う。そして、この3年間で得られた成果が、今後のシリア国における農業普及活動の活性化に役立つことを心から期待したい。



灌漑に関する研修活動



手工芸に関する研修活動



作物栽培に関する研修活